

ヘリコプターに乗ってジャングルの村々を巡回診療。青年海外協力隊員としてマレーシア、カンプジアなどで先住民の歯科治療に携わった新生病院(上高井郡小布施町)歯科口腔外科医長の北村豊氏は十二月十九日、更級歯科医師会(草深正之会長)が開いた文化講演会で「開発途上国の人々の中で生活し、そこから



講演会では現地で覚えた吹き矢の実演も披露

眺めた日本」と題して講演した。

北村氏は、マレーシアで一九七七年から三年間、青年海外協力隊員として歯科医療協力に従事。首都クアラルンプール近くにある原住民病院

更級歯の講演会

ヘリで巡回診療も

北村豊氏が医療協力の体験披露

候で雲にまかれて、燃料を使い果たす直前にやっとな帰還したこともあったという。

「日本では診療室で患者を待っていていれればいいが、むこうでは私たちが来たことを言いに行かなければならない。たばこを勧めながら世間話などをして、青空の診療所へ原住民を招待した」と現地での診療の思い出も。「住民のなかに入っていくと、心のなかの贅肉がどンドン落とされ、何が必要なのかわかってくる。日本人は心のなかに贅肉が多すぎると思う」と結んだ。

に着任。同病院に勤務しながら、月のうち一、二週間はジャングルの村々を巡回診療に出かけた。ヘリコプターで現地に向かうフライイング・ドクター・サービスでは、悪天

昨年から開催している同講演会は、一般市民にも公開している。今回は会員や一般市民ら約五〇人が参加した。